
神様に嫌われてる？

水たまり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様に嫌われてる？

【Nコード】

N4369U

【作者名】

水たまり

【あらすじ】

僕のクラスには自称神様がいます。

僕の隣の席に座っている背の低い彼女は自称、神様らしい。

そしてこの自称神様は僕を嫌っているらしい。

「おい岬」

「なあに？中澤さん」

「中澤と呼ぶな、神様と呼べ。私はお前が嫌いだ。だが、時にはそんなお前に頼らなければならぬこともある……岬、この問題わかるか？」

中澤さんがおすおすと数学のノートを僕の方へ差し出す。

悔しいのか顔が林檎のように真っ赤だ。

「ああ、これは因数分解を使っただよ」

「……因数分解ってなんだ？」

因数分解について懇切丁寧に教えてあげると、中澤さんはちゃんと理解してくれた。それどころか、さっき僕に聞いてきた問題を自分で問いてしまっただよ。

「岬、一応礼を言っておく」

「うん、それにしても神様は律儀だね。僕だったら嫌いな奴には絶対、礼なんて言わないよ？」

「当たり前だ、なんせ私は神様なんだからな」

中澤さんが自慢げな顔をする。本当は僕、嫌みを言ったつもりなんだけどなあ。

そんな鈍感な中澤さんが可愛いと思う。

「なにニヤニヤしてるんだ、気持ち悪い」

中澤さんが僕を警戒する猫のように睨む。

「ねえ、神様」

「んっ？なんだ」

僕に神様と呼ばれて中澤さんは心なしか嬉しそうだ。

「神様を振り向かせる方法ってあるのかな？」

「何を言っている、もうとっくに振り向いてるだろ？」

中澤さんは頬をつっすら赤らめながら笑顔で当たり前だとばかりに言った。

(後書き)

なんとなく思いつきで書きました。
ちなみに数学の自習時間の設定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4369u/>

神様に嫌われてる？

2011年10月9日00時41分発行